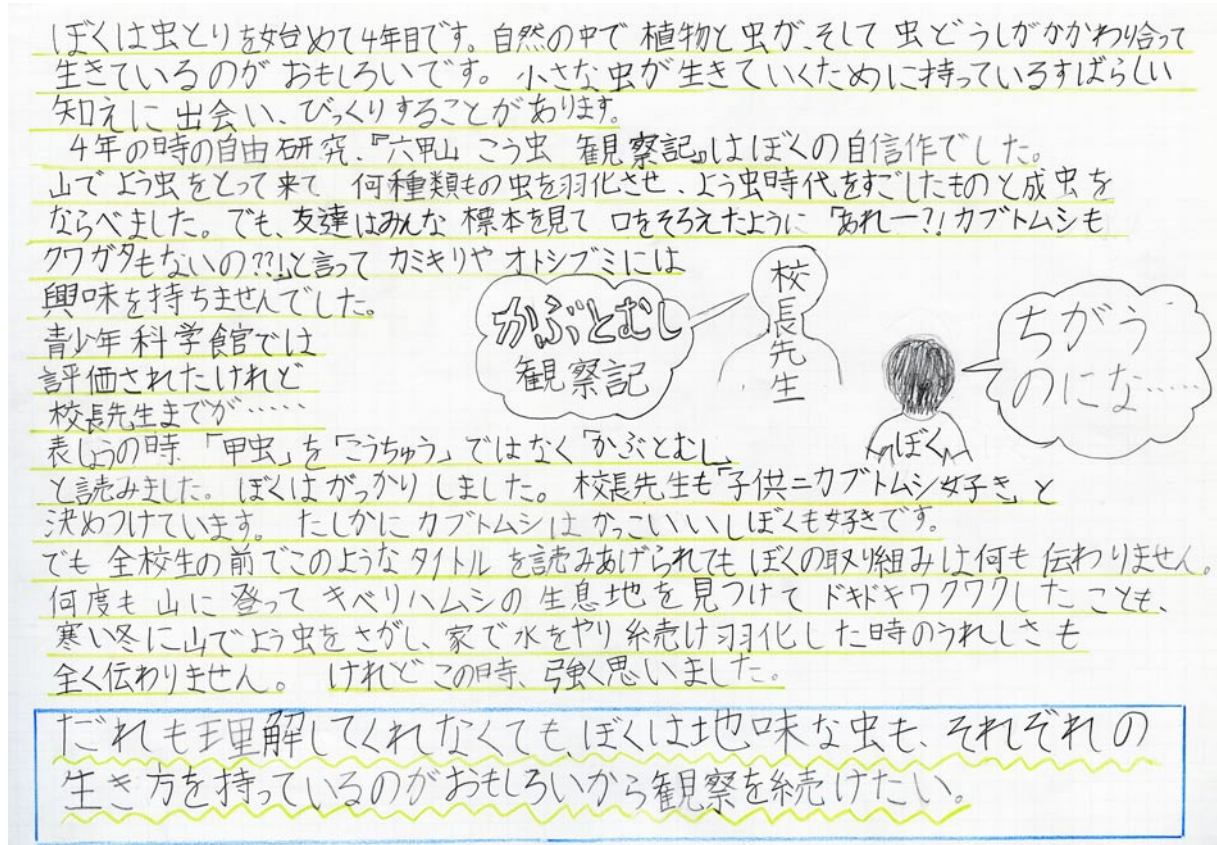


ぼくの昆虫観察宣言

矢部 清隆¹⁾



ぼくは虫とりを始めて4年目です。自然の中で植物と虫が、そして虫どうしがかかり合っていて生きてるのがおもしろいです。小さな虫が生きていくために持っているすばらしい知えに会い、びっくりすることがあります。

4年の時の自由研究『六甲山こう虫観察記』はぼくの自信作でした。

山でよう虫をとって来て何種類もの虫を羽化させ、よう虫時代をすごしたものと成虫をならべました。でも、友達みんな標本を見て口をそろえたように「あれー?!カブトムシもクワガタもないの?!」と言ってカミキリやオトシブミには興味を持ちませんでした。青少年科学館では評価されたけれど校長先生までが……表しようの時「甲虫」を「こうちゅう」ではなく「かぶとむし」と読みました。ぼくはがっかりしました。校長先生も「子供＝カブトムシ好き」と決めつけています。たしかにカブトムシはかっこいいしぼくも好きです。でも全校生の前でこのようなタイトルを読みあげられてもぼくの取り組みは何も伝わりません。何度も山に登ってキベリハムシの生息地を見つけてドキドキワクワクしたことも、寒い冬に山でよう虫をさがし、家で水をやり続け羽化した時のうれしさも全く伝わりません。けれどこの時、強く思いました。

だれも理解してくれなくても、ぼくは地味な虫も、それぞれの生き方を持っているのがおもしろいから観察を続けたい。

※小学5年生の夏休みの自由研究として提出したレポートの「はじめに」として書いた文章です。

¹⁾ Kiyotaka YABE 神戸市立成徳小学校